

## 第4講座

# 物語①

1

### 物語とは

物語とは、作者が、ある人物や事柄などについて、他人に語る形をとつて記述された散文。

### 物語の読み方

物語を読む時には、そのストーリーをとらえながら、そこにおける登場人物の心情に注意する。また、室町時代以降の物語や小説では、その中に教訓的内容が含まれていることもあるので注意する。

### 物語の分類

作り物語：架空の出来事が、作者の想像によつて書かれた物語。

#### 例「竹取物語」

歌物語：物語の話と話の間に、適宜、和歌が挿入され、散文と和歌があいまつて内容を構成するもの。例「伊勢物語」

軍記物語：主に源平の合戦など、戦の中での人間の行動と心情が著

#### された物語。例「平家物語」

### 文学史のまとめ

#### おもな物語・小説

作品	作者	成立年代	備考
竹取物語	未詳	平安時代	「物語の祖」といわれる
伊勢物語	未詳	平安時代	最初の歌物語
源氏物語	紫式部	平安時代	それまでの文学の集大成
平家物語	未詳	鎌倉時代	軍記物。琵琶法師が語り広めた
伊曾保物語	未詳	江戸時代	仮名草子。「イソップ物語」の訳書
日本永代蔵	井原西鶴	江戸時代	浮世草子。商人の盛衰を描く
東海道中膝栗毛	十返舎一九	江戸時代	滑稽本。江戸・大阪間の道中記
南総里見八犬伝	滝沢馬琴	江戸時代	読本。「勧善懲惡」を貫く長編小説

### 1 次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

田真、田広、田慶、この三人は兄弟なり。親に後れてのち、親の財宝を三つに分けて取れるが、庭前に紫荊樹とて、枝葉榮え、花も咲き乱れたる木一本あり。これをも三つに分けて取るべしとて、<sup>①</sup>夜もすがら三人<sup>②</sup>會議しけるが、夜のすでに明ければ、木を切らんとて、木のもとへ到りければ、昨日まで栄えたる木が、 枯れたり。田真これを見て草木心ありて切り分たんと言へるを聞いて枯れたり。まことに人としてこれをわきまへざるべしやどて、<sup>②</sup>わかつたずして置きたればまた再びもとのごとく栄えたるとなり。

(「御伽草子」より)

\* 奴議 = 相談。

問一 線①「夜もすがら」の意味を書け。

問二  にあてはまる言葉として、最も適切なものを次から選べ。

ア サラでも イ にはかに  
ウ いささか エ さすがに

問三 線②「とて」は、会話を引用したことを示す助詞である。その会話文の冒頭の二字を抜き出して書け。

問四 この文章の内容と一致するものを、次から選べ。  
 ア 親が年を取つたので、兄弟は財宝と木を分けようと話し合つた。  
 イ 草木にも心があるが、兄弟の気持ちを知ることはできなかつた。  
 ウ 兄弟は、木を分けようとしたが、枯れて価値がないのでやめた。  
 エ 兄弟は、木を分けるのは心ないことだと考え、切るのをやめた。

**2** 次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

――線a)～c)の動作の主体は、だれ（何）か。最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えよ。

ひよどり、小鳥どもを集めて言つていはく、「汝ら烟の作物につき、また  
は庭の木の実をくらふに、いらざる高声をして、友を呼びさわぐによりて、  
人その來たり集まるを知つて、網をはり、もちを置くなり。我、冬になり山  
に食物なき時は、人家に來たりて、庭先にある南天の実をくらへども、亭主  
\*なんてん

知ることなし。  
① あまりのをかしさに、立ちざま大きくなる声をして、礼を言  
うて帰るなり。万一もちにかかりても、少しもさわがず、身をすくめて、そ  
つとあふのけになりて、ぶらさがり居れば、はごは上に残り、身ばかり下に  
落つる時、こそこそと飛んでゆくなり。汝らは、もちにかかりたる時、あわ  
てさわぎ、ばためく故に、ゆゑ 総身にもちをぬり付けて、動くこともならずして、  
とらへらるる、不調法の至りなり。」と才智がましく語る。

末座よりみそざいといふ小鳥、笑つていはく、「人は鳥よりもかしこくて、一度②この手にあひたる者は、下にも細きはごを置き、例のごとく⑤ぶらさがりて、下へ落つれば、下なるはごを背中に付け、思ひよらぬことなれば、さすがのひよどり殿も、あわてさわぎたまふ故に、縦身にもちをぬりてとらへらることは同じことなり。世間小智の人、皆ひよどりのごとし。おのれの才覚を用ひて、いつたん、しあふせたることあれば、自慢して、いつも③かくのごとくと思へり。天下の人皆④愚かならんや。人はその巧みを知つて、重手を打つにより、今までの才覚の巧み、皆いたづらになり、かへつて仇となつて、禍ひをまねくことを⑤知らず。」

\*もち＝とりもち。

\*南天＝メギ科の常緑低木。秋の終わりから冬にかけて、直径六～七ミリの赤い実をつける。

\* 重手 = さらなる手段。


**問六** みそざいは、ひよどりに対し、結局どのようにことを言いたかったのか。二十五字以内の現代語で書け。

**問六** みそざざいは、ひよどりに対し、往々の字で書け。

ア 置いてあるのだ。  
ウ やりとげられるのだ。

イ あわてさわぐのだ。  
エ つかまつてしまうのだ。

——線④「愚かならんや」の意味として最も適切なものを次から選べ

ア 愚かであるに違いない。 イ 愚かであるはずがない。  
ウ 愚かでないこともない。 エ 愚かでないわけがない。

問三　——線②「この」の指示する内容を表す一文を抜き出し、初めの五字  
を書け。

——線①「あまりのをかしさに、立ちざま大きな声をして、札を言  
うて帰るなり」には、主にひよどりのどんな気持ちがあらわれているか  
最も適切なものを次から選べ。

ア	ひよどり	(a)
イ	小鳥ども	(b)
ウ	亭主	(c)



問一　——線①「心に落ちざる」の意味として最も適切なものを次から選べ。

- |   |          |
|---|----------|
| ア | あきらめきれない |
| イ | 興味がわかない  |
| ウ | 任せられない   |
| エ | 満足できない   |

卷之三

- 問二　——絶(2)「をかし語事」の意味とは  
ア　風流なこと　　イ　感心なこと

卷之三

「 奇妙なこと 悲惨なこと

「吾娘がソシテー 情性アソシエ

問題三  
級(3)――年久しく耳馴るれば――の主語はたれか、文章中から抜き出

して書け。

問四 権九郎の「職分の上達」を知った理由を、老姥はどのように述べてい

\*北の方大納言典侍殿＝平重衡の奥方。  
\*本意なきこと＝殘念なこと。  
\*かしこうぞなかりける＝なくてよかつた。  
\*小夜の中山＝現在の静岡県にあつた坂道。

——線①「ただつきせぬものは涙なり」とは、「とめどなく涙が流れ  
る」という意味であるが、これと同じような意味を比喩的<sup>ひゆ</sup>に表現してい  
る部分を、文章中から抜き出して書け。

問二　——線②「おはせぬ」を現代かなづかいに直して書け。

1

5 次の文章は、「平家物語」の一節で、一の谷の合戦で捕らえられた平重衡しげひらが、鎌倉に送られていく途中、自分の境遇について思いめぐらす場面である。これを読んで、あとの各問いに答えよ。

都を出でて、日数経れば、弥生もなかば過ぎ、春もすでに暮れなんとす。  
東山の花は残りの雪かと見えて、浦々鳥々霞みわたり、来し方行く末の事じ

も思ひつけたまふに、「さればこれはいかなる宿業のうたてさぞ。」とのな  
まひて、<sup>①</sup> ただつきせぬものは涙なり。  
御子の一人も<sup>②</sup> おはせぬ事を、母の二位殿も嘆き、北の方大納言典侍殿も<sup>③</sup>  
本意なきことにして、よろづの神仏に祈り申されけれども、そのしるしなし  
「かしこうぞなかりける。子だにあらましかば、いかに心苦しからん。」と

問三　——線③「のたまひける」とあるが、平重衡はどのようなことを言つてゐるか。わかりやすく書け。

イ　再び越えることができるとも思われないので  
ウ　再び越えなければならないとも思うので  
エ　再び越えることができないとも思われないので

## 第9講座

# 説話 2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

\*和泉式部、保昌が妻にて、丹後へ下りたりけるあとに、歌合どものありけるに、  
小式部内侍、歌詠みにとられて、歌を詠みけるに、定頼中納言たはぶれたはぶれ  
て、小式部内侍の局にありけるに、「丹後へつかはしける人は参りたりや。  
いかに心もとなくおぼすらん。」と言ひ入れて、局の前を過ぎられるを、  
御簾よりなからばかり出でて、わづかに直衣の袖そでを控へて、  
大江山あほえいくのの道の遠ければまだふみもみず天あまの橋立はし立て

と詠みかけける。

思はずに、<sup>(2)</sup>あさましくて、「こはいかに、<sup>(3)</sup>かかるやうやはある。」とばかり言ひて、<sup>(4)</sup>返歌にも及ばず、袖を引き放ちて逃げられにけり。小式部こ  
れより歌詠みの世におぼえ出で来にけり。これはうちまかせて、<sup>(5)</sup>理運のこ  
となれども、かの卿きよの心には、これほどの歌、ただいま詠み出だすべしとは、  
知られざりけるにや。

(「十訓抄」より)

- 問一** 線①「たはぶれて」、②「あさましくて」の意味として、最も適切なものを次からそれぞれ選べ。
- ① ア 心配して イ 喜んで ウ 倒れそうになつて  
エ ふざけて オ 大声を出して  
② ア 卑しい様子で イ 情けなくて ウ 驚きあきれで  
エ あさはかで オ ばかりかしくて
- 問二** 線④「いく」は地名の「生野」の「生」と「行く」の掛詞であるが、⑤「ふみ」は何と何の掛詞になつてゐるか。漢字を使って書け。

〔〕と〔〕

- 問三** 線③「かかるやうやはある」は「こんなことがあらうか、こんなはずではなかつた」という意味である。「こんなこと」の内容として、最も適切なものを次から選べ。

ア 歌が作れなくて、母親に手助けしてもらおうとする」と。

イ 直衣の袖そでを引っぱられて、みつともない姿になること。

ウ ごく普通のありふれた歌を詠むということ。

エ 一流の歌人として、歌合の選手に選ばれるということ。

オ すばやく上手に歌を詠むということ。

- 問四** 線④「逃げられにけり」の主語として最も適切なものを次から選べ。
- ア 和泉式部 イ 保昌 ウ 小式部内侍 エ 定頼中納言

- 問五** 線⑤「おぼえ出で来にけり」の口語訳として最も適切なものを次から選べ。

- ア 歌をおぼえることができるようになった  
イ 記憶がよみがえつてくるようになった  
ウ 歌を上手に作ることができるようになつてきた  
エ 評判が高くなつてきた  
オ 次第に忘れられるようになつてきた

- \*いくのいの地名。京都府福知山市生野いくの。
- \*天の橋立あまのはしだて京都府宮津市にある名勝地。日本三景の一つ。
- \*返歌にも及ばずおよばず返歌もできず。 \*理運りうん道理。
- \*知られざりけるにやおぼれざりけるにやお知りにならなかつたのであるうか。



3 次の文章を読んで、あととの各問に答えよ。

今は昔、大隅守なる人、國の政<sup>まつりごと</sup>をしたため行ひ給ふ問、\*郡司のしどけなかりければ、「召しにやりていましめん」と言ひて、先々のやうに、しどけなき事ありけるには、罪に任せて、重く軽くいましむる事ありければ、一度にあらず、たびたびしどけなき事あれば、〔A〕いましめんとて、召すなりけり。「ここに召して率て参りたり」と人の申しければ、先々するやうにし伏せて、尻<sup>しり</sup>、頭<sup>かしら</sup>にのぼりゐたる人、笞<sup>じも</sup>を設けて、打つべき人設けて、さきに人ふたり引き張りて出で來たるを見れば、頭は黒髮もまじらず、いと白く、年老いたり。

見るに打ぜん事いとほしく覚えければ、〔1〕何事につけてかこれを許さんと思ふに、〔2〕事つくべき事なし。あやまちどもを片はしより問ふに、ただ老いをかうけにて答へる。いかにしてこれを許さんと思ひて、「〔3〕おのれはいみじき盜人かな。歌は詠みてんや」といへば、「はかばかしからず候へども、詠み候ひなん」と申しければ、「さらばつかまつれ」といはれて、程もなくわななき声にてうち出す。

年を経て頭の雪はつもれども、〔5〕しもと見るにぞ身は冷えにける

といひければ、いみじうあはれがりて、感じて許しけり。人はいかにも情はあるべし。

(「宇治拾遺物語」より)

\*郡司=国守(国司)の下で一郡を治める役人。

\*しどけなかりければ=だらしがないので。

\*笞=むち。

問一 A には、漢字、ひらがな一字ずつからなる語が入る。その語を文

章中から抜き出して書け。


問二 ——線①「何事につけてかこれを許さんと思ふ」とあるが、何を見て

許そつと思つたのか。そのことを表現している箇所の初めと終わりの二字ずつを過不足なく抜き出して書け。(句読点は含まない。)

初め

終わり

- ア 人を裁くには、臨機応変にすべきである。
- イ 人は芸能を身につけておくべきである。
- ウ 老人に対しては、慈悲の心を持つべきである。
- エ 人を裁くには、厳しくすべきである。

問三 ——線②「事つくべき事なし」の意味として最も適切なものを次から選べ。

- ア 許すことのできる善行がない。イ 規則を変えるわけにはいかない。
- ウ 賛成する意見は一つも出ない。エ すぐにはよい思案が浮かばない。
- イ お前は見かけによらないやつだなあ。
- ウ お前はひどく年取ったやつだなあ。

工 お前はとんでもない悪いやつだなあ。

問五 ——線④「わななき声にて」の理由を示している箇所を文章中から五字以内で抜き出して書け。


問六 ——線⑤「しもと」は掛詞であるが、一つは「笞」。もう一つは何か。

漢字、ひらがな一字ずつからなる語で答えよ。


問七 文章中の和歌の内容として最も適切なものを次から選べ。

ア 年取つた者を罰するとは、むごい仕打ちだ。

イ 今日はひどい雪降りで、すっかり冷えてしまつた。

ウ 年を取つても、罰せられるのは恐ろしい。

エ ひどく年を取つてしまつたので、特別に許してほしい。

問九 大隅守の性格として不適切なものを次から二つ選べ。

- ア 仕事に関しては厳しい。
- イ 裁判のやり方に自信がない。
- ウ 和歌に関して理解がある。
- エ 融通のきかない性格である。
- オ 柔軟な性格の持ち主である。
- カ 老人に対する思いやりの心がある。

#### 4 次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

三井寺にわりなく貧しき僧ありけり。念ひわびて思ふやう、「かく所縁のなきなめり。かくしも思ふ事の違ふべきかは。我、外へ行きて宿世をも試みん」と思ひて、昼などは、旅姿もあやしければ、曉出で立つほどに、夜ふかく起き、<sup>①</sup>道の程もわづらはしかるべしとて、しばしよりふしたる夢に、色青み、瘦せおとろへたる、わびしげなる冠者、我と同様に藁ぐつはきなどを用意し、いみじう出でたつあり。

さきさきも見えぬ物なれば、あやしくて、「おのれは何者ぞ」と問ふ。「年來候ふものなり。いつも離れ奉らぬ身なれば、御伴申し候はんとて出で立ち侍る」と云ふ。僧の云ふやう、「ざる物やはある。名をば何と云ふぞ」と問へば、「人々しき身ならねば、異名侍り。ただうち見る人は、<sup>②</sup>貧報の冠者となむ申し侍る」と云ふと見て夢さぬれば、即ち、身のつたなき宿世を知り、「いづくへ行くとも、此の冠者が添ひたらんには」と思ひて、外心改めて、あやしながら、本の寺にぞ住みける。

\* わりなく=ひどく。  
\* かく所縁=こんな貧しい理由。

\* 宿世=前世からの因縁。  
\* 冠者=若者。  
\* いみじう出でたつ=くつきりと浮かび上がつて。

\* 人々しき=一人前の。

\* 貧報=前世の報いとしての貧乏。

\* 外心=外に向かた心。

\* 又しもあるべき事=ほかの者にあること。

\* いくばくもあるまじき身=それほど長くもない一生。

\* あたら=もつたないことに。  
\* 後世の事=後世のための仏道修行。

\* 仏天の知見=仏様の見識。

#### 問一 線①「道の程もわづらはしかるべしとて」の意味として最も適切なものを次から選べ。

ア 道中、知つてゐる人に会わぬないようにと思つて

イ 長い道のりを行くことを考えると途方に暮れて

ウ 夜道を行くのも面倒なことだと思つて

エ もつと近道はないものかといろいろ思案して

問二 線②「貧報の冠者」の姿形を描写した部分を文章中から二十字前後で探し、初めと終わりの五字を抜き出して書け。

初め
終わり

#### 問三 線③「いづくへ行くとも、此の冠者が添ひたらんには」の後に省略されている言葉を、現代語でわかりやすく書け。

問四 この文章を通して筆者が最も言いたいこととして適切なものを次から選べ。

ア 貧しいことはこの世のならいなので、貧しいことを恥ずかしく思ふことはない。

イ この世でもつとよい生活があるのでないかと思って心を悩ますよ

りも、後世のための仏道修行にいそしみなさい。

ウ 前世の報いをまつたくわからない人が多い中で、夢でそれを知ることができた人は幸いなことだ。

エ この世の貧しさから逃れたいと思うのであれば、自分の力に頼るのではなくて、仏様の見識に依り頼みなさい。

# 解 答

## 〈MJSテライト 古文〉

### 第1講座 古文の知識

○歴史的なづかい

1 (1) おおかみ (2) いわう (3) かえる (4) こおり  
(5) うぐいす (6) こいねがう

2 (1) こうし (格子) (2) ばしよう (芭蕉)

3 (1) しううとめ (姑) (2) きょう (今日)

4 (1) こうみよう (高名) (2) さちようめん (几帳面)

5 (1) にゅうどう (入道) (2) ちようし (調子)

6 (1) 解説 歴史的なづかいの「iu」は「yū」、「eu」は「yo」と読む。

7 (1) がいじん (外人) (2) だいかん (代官)

8 (1) こうみよう (光明) (2) かちよう (花鳥)

9 (1) かんとう (関東) (2) がん (願)

10 (1) 解説 「くわう」→「かう」→「こう」となる。

11 (1) まいる (参る) (2) えんりょ (遠慮)

12 (1) こずえ (梢) (2) くれない (紅)

13 (1) いろり (囲炉裏) (2) こえ (声)

14 (1) 解説 歴史的なづかいのワ行は「わ・ゐ・う・ゑ・を」となる。

15 (1) おじ (伯父・叔父) (2) おかし

16 (1) わずらい (煩い) (2) もみじ (紅葉)

17 (1) いづこ (何処) (2) おこがまし (痴がまし)

18 (1) 解説 現代かなづかいでは「ぢ・づ・を」を用いる場合は限られている。

○重要古語

1 (1) かわいらしいもの(は) (2) 趣がある(風情がある)

(3) (4) かわいい みごとに (5) 心さびしい(から)

(1) (2) 解説 現代語の「美しい・きれい」と区別する。

(3) 切ないほど「かわいい」の意味。

(4) 現代語では、「喜ぶべきことだ」という意味が強いで注意。

(5) 現代語の「にぎやかだ・うるさい」という意味では、前後の文

脈がつながらない。

2 (1) だんだんと(次第に) (2) たいそうかわいらしく

3 (1) おおせい (4) たいそう趣がある(とても風情がある)

4 (1) とても残念だ (6) 出発できない

5 (1) ますます (8) まつたくそのききめがない

6 (1) 解説 「やうやう」は読み方も重要な

7 (1) 「いやみじ」は、程度のはげしさを表す。

8 (1) 「え……ぢ」(……できない)とセットで使う打ち消し表現。

9 (1) 「な……そ」(……してはいけない)も同じ使い方。

10 (1) 「いといと」が転じた語。「いと」よりも強い表現。

11 (1) 「さらにはなし」で強い打ち消し表現。

12 (1) ① イ ② イ ③ ア

13 (1) 解説 (1) 「あはれなり」は「をかし」と並ぶ重要古語で、代表的

な多義語でもある。「しみじみと心を打つようす・情趣が深いようす・すてきだ・気の毒だ・りっぱだ」などの意味がある。

14 (1) 「おぼつかなし」の現代語の意味は「気がかりだ・心配だ」の

方に近い。